

問診の大切さ

令和 6 年 2 月、柏崎総合医療センターで実習をさせていただきました。実習では内科外来を中心に見学させていただきました。

今回の実習で特に心に残ったのは問診をすることの重要性です。患者さんは全員が教科書そのまま、医学書そのままの主訴を持ってくるわけではなく、一人一人痛みの感じ方や痛みの出る場所などは異なるということを、内科外来で実感しました。これは当然のことなのですが、座学や国試対策の勉強ではあまり実感することができない感覚でした。4 回ほど問診を担当させていただいたのですが試験と違い、実際に症状で苦しんでいる患者さん相手に問診をするので試験以上に緊張しました。

主訴から考えられる鑑別疾患を頭の中で列挙し、必要な問診を重ねてそこから疾患を絞っていくという作業はとても実践的で、またなかなか大学の実習ではできない体験だったのでとても貴重な機会でした。必要な検査をオーダーする際も、どの疾患の鑑別をするためにどの検査を行うということを考えながら行うのですが、自分が今まで勉強してきたことを実際の現場で体験出来たことは大きな自信になりました。

その上で専門医の先生の間診やオーダーを見ると今までは見えていなかったテクニックや経験則を学ぶことができました。

柏崎総合医療センターで学んだことは実臨床に挑むうえでとても貴重な経験になりました。とても充実した一か月間でした。医師になってからもこの経験と学んだことを生かしたいと思います。担当させていただいたの患者さんと支えてくださった多くの先生方、学びを与えてくださった職員の方々に感謝申し上げます。